

地域医療連携室だより

2016 年度 第 2 号 8 月

<理念>

安全で安心できる質の高い医療・介護を提供し、地域に貢献し信頼される病院を目指します。

<基本方針>

1. 地域と連携し地域医療・保健・福祉に貢献します。
2. 患者さんの権利を尊重し、説明と同意を基本とする医療・介護を提供します。
3. 安全で安心できる質の高い医療・介護の提供に努めます。
4. 地域の健康促進を目指した活動を推進します。

ごあいさつ

リハビリ部門は今年度よりリハビリテーション科として新たなスタートを切りました。新たに理学療法士 2 名を増員し、理学療法士 7 名、作業療法士 1 名、計 8 名のスタッフで、地域の皆様にますます充実したリハビリテーションサービスを提供できるよう努めてまいります。

地域包括ケア病床が 4 月より開設し、専属理学療法士を 1 名配置しております。地域包括ケア病床は急性期を過ぎ症状が比較的安定した患者さんを対象に治療、看護、リハビリテーション等を行うものです。主に在宅復帰を目標に入院期間を延長して手厚いリハビリテーションサービスを優先的に提供します。現在 4 階東病棟に 4 床、3 階病棟に 4 床稼働しております。さらに 4 階西病棟にも 4 床追加予定です。主治医、看護師、医療ソーシャルワーカーらと協力、連携し安心して退院できるよう支援してまいります。

また今年 3 月より訪問看護ステーションが開設されており、今後は訪問看護ステーション専属の理学療法士を配置する予定です。かねてよりご要望いただいていた訪問リハビリの拡充を図ってまいります。

利用されるすべての皆様が質の高いリハビリテーションを安心して受けられるように心がけてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科 理学療法士長 三船 衛



6/30 地域協議会が開催されました！

地域協議会は独立行政法人地域医療機能推進機構法第二十条で設置することが義務付けられておりまして、当院では年 1 回以上開催することになっております。この地域協議会の目的は、施設の運営にあたり、広く利用者その他の関係者の意見をお聴きし、当地域の実情に応じた運営に努めるためです。

今回で 3 回目となる地域協議会ですが、本年度新たに分科会を設立し、更なる意見・要望の掘り起こしに努力していくなど、活発な議論がなされました。

地域協議会によっていただいたご意見をもとに、今後の病院運営、患者サービスの向上を図っていきたいと考えております。



コヒ 週刊 新報 幸区 2016年(平成28年) 7月4日 (月)

熊代市緑町のジェイコ
秋田病院石岡院長
は先月30日、地域住民の
多様なニーズに応えた医



病院への要望などを協議したジェイコー
秋田病院の地域協議会

療や介護の運営を目指す
ことを目的とした地域協
議会を開き、行政や医療
関係者、住民らが同病院
へのニーズについて協議
した。訪問看護ステーション
の開設に伴う訪問リ
ハビリの推進や「敷地内
薬局」の設置などを求め
る意見が出された。
今年度は行政や医師
会、住民団体、病院職員の
26人が委員を務め、23人
が出席。委員長には熊代
山本医師会会長の山須田
健氏を選出した。
はじめに、同病院の27
年度事業概況として、石
岡院長が各科別の入院・

外来患者数や収支状況な
どを説明。今年度は腹腔
鏡手術の導入や漢方内
科リハビリテーション
科をそれぞれ新設したこ
となども報告した。
また、昨年度の協議会
では、熊代山本全体の医
療環境に対するニーズが
協議の大半を占めたこと
を受け、本来の目的であ
る同病院に限定した意
見・要望を掘り起すた
め、利用者の立場から意
見集約するための分科会
を新設したことを報告。
分科会で出された意見
は、協議会の協議議題に
反映され、分科会で話し
合

このうち、処置室の混
雑については、外来以外
の部門から人員を確保し
たり、案内係と看護部長
を配置したりと患者への
きめ細かな対応に配慮し
ているとし、担当者は「少
しずつではあるが、流れ
が良くなっている。もっ
と工夫できる点を探りた
い」と述べた。
協議のメインとなる同
病院へのニーズについて
は、今年3月に訪問看護
ステーションを新設した
ことを受け、「在宅医療の
推進に向けた訪問リハビ
リをやってみよう」と有
り難い」との意見が出さ
れた。厚生労働省が病院

ジェイコー秋田

訪問リハビリを要望

ニーズ反映
に地域協

敷地内薬局の開設も

に上った待ち時間の短
縮▽処置室の混雑▽認知
症患者への対応▽セカン
ドオピニオン」などに
ついて、病院側が対策や
取り組み方針を説明、協
議した。

の敷地内に薬局を併設す
ることを認める方針を固
めたことを踏まえ、「施設
内に薬局があれば非常に
助かる」と敷地内薬局の
設置を求める声も上がった。

「病院に対する地域住
民の要望や意見をこのよ
うにすくい上げるのか」
との意見には、ホームベ
ーシや投書箱のほか、市
民講座などの機会を活用
して意見集約することも
検討したいとした。

同病院は、一昨年に独
立行政法人地域医療推進
機構に移行。地域協議会
は地域の医療や包括ケア
の要として、病院利用者
や関係機関の意見を地域
の実情に応じた運営に反
映させようと、年1回開
催している。

平成28年 7月4日付
北羽新報

7/15 認知症研修会が開催されました！～地域のケアマネージャーら 168 名参加～

平成 28 年 7 月 15 日（金）JCHO 秋田病院健康管理センター大ホールで認知症研修会が開催されました。院内外からたくさんの参加があり、計 168 名の参加者となりました。

金子副院長の認知症講義を始め、製薬会社からも認知症薬の効果についての貴重なお話を伺うことが出来ました。認知症に対する関心は非常に高いため、今後も取り組んでいくことにしました。

参加者のみなさま本当にありがとうございました。



総合相談室が新設されました！

患者様からいただく相談の窓口として、地域医療連携室前に総合相談室が新設されました。木目を基調とした造りになっており、よりリラックスした状態での相談が可能となっております。

皆様どうぞご利用ください。

ら通気層を兼ねる。同市河戸川の相澤銘木（網幸本代表取締役）が22年に県立大木材高度加工研究所と共同開発し、製品化した。

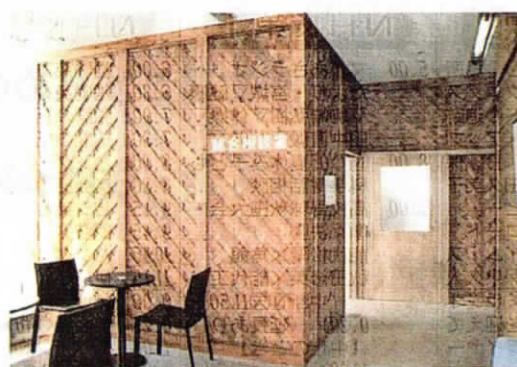
施工を担当した同市赤沼の田村建築代表取締役の田村裕さん（62）は「耐震構造用のパネルだが、デザイン用としても使える」と思ったとし、杉板が

3層に重なり合う格好状の構造に着目。吸湿性や防音効果のあるもみの木のボードとコラレーシヨも特色になっている。

さらに、内側にはカルシウムとミネラルを含む化石を原料としたオリジナル製品の健康塗り壁が施され、マイナスイオンや消臭効果も期待されている。相談室2部屋分にはアミパネル（縦2・9尺横0・9尺）7枚、もみ殻ボード（2尺1・1尺）13枚を使用した。

相澤銘木取締役事務の網智規さん（42）はこの

入院手続きや各種相談を受け付ける総合相談室は1日最低でも10人の利用者があり、県産材を活用した一角は多くの来院者の心を癒やしてくれている。同病室では隣に設置している健康管理センターや1階のカフェ、診察室から院内の緑の木質化に取り組んでいる。



壁面に「アミパネル」を使用した総合相談室（能代市緑町のジェイコー秋田病院で）

杉の間伐材で製作した通気耐力面材「アミパネル」が使われた。本来パネルは、柱と柱の間に据える筋交いや構造用合板の代替として使用されるが、今回はパネルそのもののデザインを重視。あきたこまちのもみ殻を使った住宅用断熱材と組み合わせ、県産材の温もりあふれるエコな空間が完成した。

アミパネルは、杉板を縦と斜めに3層に積層した耐力面材で強度と剛性が特長。地震などに耐えられる耐力壁でありながら、

相談室にアミパネル

ジェイコー
秋田病院
能代市緑町のジェイコー
秋田病院（石岡隆院）
ユールし、壁には秋田
杉の間伐材で製作した通
気耐力面材「アミパネ
ル」が使われた。本来パ
ネルは、柱と柱の間に据
える筋交いや構造用合板
の代替として使用される
が、今回はパネルそのも
のデザインを重視。あ
きたこまちのもみ殻を使
った住宅用断熱材と組み
合わせ、県産材の温もり
あふれるエコな空間が完
成した。

7/21 第2回市民講座が開催されました！ ～「漢方に親しもう」太田医師～

第2回目の市民講座が7月21日開催されました。当院に今年4月から赴任されている太田医師が担当いたしました。

漢方の基本的な知識や診察の受け方等、服薬に導入できるような、漢方を理解する糸口になるような機会となりました。

講座に参加されている市民のアンケートからも、効能について参考になったことや、基本の言葉を理解できたこと、気軽に外来で相談してみたい等の声が聞かれ、前回同様に健康管理の一助となるような好感を得たコメントが多くありました。

今後も市民を巻き込み、より健康意識の向上となるような機会が提供できるよう継続していく予定です。

★健康講座 今後の予定★

○会場：JCHO 秋田病院 2階 健康管理センター大ホール

○時間：午後3時～3時45分

日程	テーマ	講師
5/19 (木)	骨粗鬆症について	整形外科 大塚 博徳 先生
7/21 (木)	漢方薬に親しもう	産婦人科 太田 博孝 先生
9/15 (木)	最後まで自宅で過ごすための 医・食・住について	医療社会事業専門員 安藤 美紀
11/17 (木)	認知症について	看護師長 東 美奈子



独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO)

秋田病院 地域医療連携推進室

秋田県能代市緑町 5-22

電話：0185-52-3271 (代表)

FAX：0185-54-7892 (代表)

FAX：0185-54-1266 (連携室直通)

漢方の効果を理解

能代市緑町のジェイコー秋田病院(岡田院長)で21日、市民講座「漢方に親しもう」が開催され、同院産婦人科・漢方内科の太田博孝医師が実際の症例に基づきながら漢方の効果やメリットを紹介した。

同院は5月から産婦人科外来と漢方外来を開設し、太田医師が担当している。講座には市民ら約30人が参加した。

太田医師は、漢方のメリットに「副作用が少ない」「いつでもやめられる」「医療費が安い」「柔軟にやぶら治す」「ヨクニク、漢方など

「漢方に親しもう」市民講座に30人参加

対応できる「冷え性」や「女性に多い「冷え性」や「特効薬がない」とされる「こむら返り」も漢方が効果的であることを紹介。漢方医学で体は「気・血・水」の3要素で構成されており、「一般的にがん患者は気虚・血虚状態が多い」とした。

その上で、がん患者に漢方が奏功した症例を取り上げ、術後の頭痛や冷え、動悸、イライラなどの症状は漢方を使えることを説明。また、がん治療の補完療法にはマッサージや日光浴、ヨガ、温泉などがあるとし、「さまざまなものを組み合わせると効果的」と述べた。

このほか、健康保持や体調改善のため、栄養を考えた食事を取りつたり制限する食養生の基本にも実施した。

漢方の効用などについて理解を深めた市民講座(ジェイコー秋田病院で)

平成28年7月27日付 北羽新報